



広報の機会 国際親善奨学金プログラムを 推進するためのアイデア

ロータリー財団の国際親善奨学生をスポンサーしたり、受け入れることは大きな喜びをもたらす活動です。皆さんのクラブおよび地区が、国際親善奨学金プログラムに参加されるたびに、その活動の各段階を広報の機会として活用して下さい。

下掲の指針は、皆さんのクラブや地区の奨学金プログラムの各段階における広報の機会についてのアイデアを提供するものです。

優秀な資格を有する申請者の募集

優秀な資格を有する候補者を募り、選考することが奨学金プログラムにおける最も重要な段階です。広報の面から言いますと、今留学中の奨学生や財団学友の人たちこそ、国際親善奨学金プログラムを最も効果的に広報、推進できる立場にある人たちです。奨学金プログラムは、海外留学の体験を生かし、それを語り伝える奨学生自身の反響に依存します。

広報活動は、大学生および大学当局に各地のロータリー・クラブを通じて取得できる奨学金の存在を周知させることです。より多くの人々が、ロータリーの奨学金プログラムとその独特の目標に気づいていればいるほど、資格ある申請者の層が広がることとなります。まず、地元の各大学で学生の指導にあたる担当者のもとには、奨学金に関する最新の情報資料が揃っており、問い合わせ先や貴地区奨学金委員会の担当者の氏名、電話番号とEメール住所が知らせてあるように確かめることです。

奨学金の申請書式が揃いましたら、発表記事（5ページの見本を参照のこと）を作り、送付して下さい。申請できる奨学金について知らせる広告を作成した地区もあります。その発表記事には、国際親善奨学金プログラムに関する概要資料やパンフレットが添付されていなければなりません。奨学金の広報のために随時に使用できる広報機関のリスト（定期的に更新）を作成して下さい。そのリストには下記の人たちの氏名、住所が含まれていなければなりません：

- ◆ 地方紙や全国紙の編集者。
- ◆ 地元の大学の構内新聞や出版室の編集者。
- ◆ 地元のラジオ放送局のプログラム担当者－各大学のラジオ放送局を含む。
- ◆ 各大学の留学生または学生指導担当者。

- ◆ 地元のケーブル・テレビや公共用チャンネルのプログラム担当者。

そして、皆様の最も重要な視聴者であるロータリアンにも周知させることです。ロータリアンおよびロータリアンの直系家族は、奨学金を受領する資格はありませんが、皆、地元で奨学金の広報を推進できる人たちです。奨学金に関する情報資料は、必ず全クラブ会長に配布し、全ロータリアンが友人や同僚に奨学金の申請に関する情報を普及するよう奨励して下さい。

留学する奨学生にとっての広報の機会

奨学生自身ができること

地元の大学生に奨学金が授与されたというニュースは、この上ない広報の機会をもたらします。そして、広報は、奨学金受領者自身にもできます。奨学生は、6ページに掲載されている見本に基づき、各自で発表記事を作成することができます。奨学生は、ロータリー財団管理委員会から受領通知を受け取り次第、その発表記事を地元の新聞をはじめ、出身校の構内新聞や同窓会誌、本人が関係している業界誌などへ配布するように勧めてください。なお、その場合、裏に名前を明記した本人の写真を添付するように付言して下さい。

出発に先立ち、奨学生は、留学期間中、地元の新聞社の「海外特派員」の役をつとめる可能性について新聞社に交渉し、その期間中、定期的に海外での体験を綴った記事や寄稿文を提出する手配をしておくことができます。例えば：

- ◆ ジャーナリストのキャスリーン・バーゲロン (Kathleen Bergeron)さんは、ミシシッピ州ピロクシ市のThe Sun Herald紙のライターの仕事から1年間休みをとって、国際親善奨学生となりました。アイルランドのユニバシティ・カレッジ・コークに在学中、バーゲロンさんは、アイルランドの文化について、および、ロータリー財団奨学生としての海外生活についての記事を書いて、自分の新聞社に送りました。
- ◆ また、サンディー・イウリアノ (Sandy Iuliano)さんは、カナダで学ぶオーストラリアの奨学生ですが、別の方法を取りました。彼女は、ホスト国の地元新聞に連絡を取り、健康とフィットネスに関するコラムを定期的を書くこ

とを提案しました。その努力が実り、サンデーさんは、Prairie Free Press 新聞の週刊コラムを担当し、国際ロータリーのお蔭であると、定期的に、自身の記事で言及しました。

- ◆ 米国、カリフォルニア州の第5160地区は、奨学生のアビゲイル・コリンズ-シアーズ (Abigail Collins-Sears) さんが奨学生としての体験を報告する、ウェブサイトを設置することに協力しました。

奨学生の海外での留学生活は、新しい友人作りと新しい体験の日々となります。従って、多くの奨学生は、その体験を日誌に書き込んだりして記録を作っています。帰国後は、ロータリー・クラブやその他のグループ、報道機関などで報告する任務がありますので、留学中の出来事を記録しておくことは、非常に大切なこととなります。

写真を提供する

奨学生はホスト国で写真を撮るように奨励すべきです。これは、広報活動に役立つだけでなく、奨学生が自分たちの活動を覚えておくためにもいい方法です。メディアに報道してもらうチャンスを増やすための方法の一つは、地元の新聞社に興味深い視覚的資料を提供したり、テレビのニュース・プログラムのためのビデオ撮影の機会を指摘したりすることです。もしも地元の新聞社がカメラマンを派遣できない場合は、自分で写真を撮るか、プロの写真家を雇って、その写真をメディアに送って下さい。質の高い、視聴覚に引き付けられるような写真が、掲載してもらえる可能性を高めます。

写真と一緒にキャプションをつけて、その場面を説明し、写真に写っている人々の名前を明記します。また、奨学生が寄せた書簡や報告書に、引用に適したものがどうか気をつけます。

写真を撮る際には、想像力を働かせて下さい。数人の人々がカメラを直視しているというような写真は面白くありません。アクションや物語を捉え、国際親善奨学金プログラムの目的を伝えるような写真を撮って下さい。それは、

- ◆ 現場を捉えた写真—地域社会の中のプロジェクトやプログラムで実際に活動している奨学生、
- ◆ 2つの異文化が出会っている様子を示す写真、
- ◆ 発表をしている奨学生、
- ◆ 地元のロータリアンと一緒に奉仕プロジェクトで、または子供と活動している奨学生。
- ◆ 出来る限り、看板や衣服などにロータリーの徽章の入った写真を撮ります。

- ◆ 奨学生の写真は国際ロータリーにも送って、出版物や展示物で使用してもいます。

どのような物語を当方に提供できるか、当方のウェブサイトのNewstip書式をご覧ください。

クラブ/地区ができること：

国際親善使節として、奨学生は、各自の国およびロータリーの代弁者をつとめなければなりません。奨学生は、ホスト国のロータリー・クラブや他のグループの会合などで、自国について発表し、各報道機関や一般の人々からの質問に対して適切に回答する責務を有します。従って、クラブは、各地区を担当する事務局（日本サービス・センター）から最新のロータリー情報資料、概要資料、出版物などを入手し、奨学生に参考資料として提供することができます。

奨学生が出発した後も、奨学生の海外における活躍振りを地元の報道機関を通して広報することができます。1学年度あるいはマルチ・イヤー奨学生は、留学年度に入ってから2カ月後に、スポンサー地区とホスト地区の双方に報告書を提供しなければなりません。報告書には、ホスト国の文化、教育制度、国民やロータリアンについての印象、およびこれまでの成果が含まれます。その報告は、殊に奨学生の留学先が余り知られていない地方とか、最近のニュースで特集された国の場合、地元の報道機関にとっても関心があることに相違ありません。国際的出来事に関する地元の人の観察は、興味深いニュースとなり、人の心を捉えるものとなります。適切であれば、奨学生の承諾を得て、その報告に基づく記事を地元の報道機関に提供してください。

海外からの奨学生にとっての広報の機会

貴地区内に留学中のロータリー奨学生がいる場合、まず、良きホストになって下さい。ロータリーの国際親善奨学金プログラムが他の奨学金プログラムからはっきり違っている点は、その地方のロータリー・クラブが積極的に関与する点です。顧問ロータリアンとホスト・クラブは、奨学生の異国における生活への順応を助けます。ロータリアンは、なれない土地へ来た奨学生が直面する問題に答え、必要な援助を提供する支援組織をなしているのです。奨学生が、クラブ・プロジェクトや地区行事に参加すれば、ロータリーの良き代弁者となる可能性が増します。奨学生は会合で講演者になることができることをクラブに周知させ、奨学生を地区大会やその他の行事に奨学生招きます。貴地区が、多数の奨学生を受け入れる場合、奨学生の到着を広報する記事（7ページの見本を参照）を報道機関へ提出することができます。奨学生がクラブの例会で講演する場合には、地元の報道関係者も招待して下さい。地元の地域社会に対する留学生の見方は、よい特集記事となります。下記は、奨学生が取材された数例です：

- ◆ メキシコからのロータリー奨学生であるピラー・ウィオランテさんは、ノース・カロライナ州グリーンズボロ市の地元テレビ番組の「ザ・グッド・モーニング・ショー」に、彼女の顧問ロータリアンと共に出演し、奨学金プログラムと、彼女の「親善大使」としての役割について話をしました。
- ◆ 日本からドイツへ音楽を勉強するために留学した財団奨学生、ワタナベ・アツコさんが、*Aschaffener Zeitung*紙に写真入りで特集されました。写真は、ワタナベさんがその他のロータリアンのためにピアノの演奏会を行った写真で、その写真と共に財団の国際親善奨学金に関する特集記事が掲載されていました。
- ◆ 奨学金での1年間の留学のために、米国ワイオミング州からチリのコンセプションまで、自転車で旅をしたクリストファー・ジェンキンス君は、チリの朝のテレビ番組*Buenos Dias a Todos*に出演して、自分の自転車旅行の体験と、彼のチリ滞在を可能にしたロータリー奨学金について話をしました。

報道機関の取材は、奨学生自身の能力や関心事、その人柄によって異なります。報道機関は、珍しい分野を選考して優秀な実績をあげた奨学生により関心を持ちます。広報活動の成敗は、奨学生の留学地による場合もあります。毎年、数人の留学生をホストしている地区では、報道機関の関心も薄れてきているかも知れません。しかし、滅多に海外からの奨学生を迎えることのない地区では、その到着が大きな関心を捉える行事となるかも知れません。従って、貴地区へ留学する奨学生の動向については、常に、報道関係へ伝え、連絡担当者の氏名と電話/ファックス番号およびEメール住所を知らせておいて下さい。

財団学友の活用

奨学生は、その留学期間が終わると、海外での体験に関するいろいろな土産話を携えて帰国します。地元のクラブや報道機関に奨学生の帰国を公表し、留学生活について話をしたり、インタビューに応じることができることを伝えて下さい。報道機関の関心は各奨学生の事情によって異なります。例えば、地元のマスコミは、元米国海兵隊員で、最近、香港からカリフォルニア州クーパーチノに戻ったジェームス・クックさんによるロータリー・クラブでのスピーチについて報道しました。英国が香港を中国に返還するという歴史的出来事を目撃した学生として、クックさんは、国際的なニュース記事のための信頼できる地元の情報源となりました。

奨学生によっては、海外での留学生活についての記事を書き、地元の新報や同窓会誌、業界誌、ウェブ・サイトへ送付している人もいます。トルコからの奨学生、ヤルチン・サートさんは、留学中は、Eメールを使って家族と通信したり、インターネットを通じて他のロータリー奨学生との会話をしたかについて記事を書き、コンピューター業界誌 *Monitor* に投稿しました。

長期にわたる財団学友の動向を追跡する手続きを作成し、組織して下さい。地区は、正確なデータベースを設置し、維持するよう奨励します。奨学生は、自身の本籍地区から転出する機会が多いので、転出した地区のロータリアンと連絡を取ることができるよう助力します。国際親善奨学金プログラムは、各界で著名な専門家となっておられる学友から広報による支援を受けてきました。

多くの元奨学生が、各自の国の政界や各自の業界の第一線で活躍しています。ロータリー財団から奨学金を受領したことがその第一歩になったと言っておられます。元奨学生である、米国のジャーナリストとして著名なビル・モイヤー氏、最近引退した元国連難民高等弁務官の緒方貞子氏、ナショナル・エンドウメント・フォー・アーツ（全国芸術基金）の元責任者ビル・フェリス氏、映画評論家として著名なロジャー・エバート氏などは、たびたび、地区の行事や報道機関の番組において国際親善奨学金プログラムの代弁者をつとめて下さっています。

学友は、ロータリーのための優れたスポークスマンであり、奨学金プログラムの長期的恩恵について語るができます。多くの財団学友は、ロータリー財団のベネファクターです。研究グループ交換チーム・メンバーとしても優れた資格を有し、ローターアクトとロータリー・クラブの会員候補者でもあります。

何年も前の奨学生であっても、クラブや地区での会合や資金募集活動への出席、参加を求めます。多くの学友は、財団への恩返しの機会として喜んで参加してくれます。学友を探し出すための援助が必要な際は、国際本部のロータリー財団学友課までご連絡願います。

広報のための資源

ロータリーの広報に関する更に詳しいことをご希望の方は、出版物「効果的な広報：ロータリー・クラブへの指針」(257-JA) をご注文下さい。この指針は、クラブの活動を地元で推進しようとしているロータリアンに対して、基本的な助言や提案を提供します。この指針は、日本サービス・センターから入手できます。

ワールド・ワイド・ウェブのロータリーのホーム・ページも、奨学金プログラムの良い情報源です。インターネット・アドレスwww.rotary.orgのロータリー・ホーム・ページを訪問してください。ウェブ・サイトには、ロータリーに関する広範囲にわたる情報を掲載した「ページ」のコレクションがあり、ページ数は増加しつつあります。ロータリーの背景に関する情報や、奨学金に関する最新情報を調べるために、ホーム・ページを利用して下さい。このホーム・ページからは英語版の奨学金パンフレット (132-JA) と申請書 (139-JA) をダウンロードできます。

最後に

最も効果的な広報活動は、奨学生に関する限り、予期できるものとは限りません。広報活動についての日程を定めることも大切ですが、それに限ってはいりません。奨学生が広報に値することを実行した場合、あるいは、一般大衆にも伝えるべきことがあった場合には、ニュース記事または通信の形で、直ちに報道関係者および国際ロータリーへ提出して下さい。

提出した記事がすべて採用されるとは限りませんが、案外、多くの記事が掲載されるものです。ロータリー財団の奨学生を広報することにつき、その他の指針の手引きが必要な場合には、いつでも、国際本部の広報担当部まで、電話：847-866-3237、ファックス：847-866-8237、またはEメール：pid@rotaryintl.org。

ニュース記事の見本

国際親善奨学生についてのニュースを発表するのに最も良く使用される方法は、報道用記事の送付です。下記は、申請書式の入手方法、奨学生の選考および来訪奨学生の到着を含む記事に関する提案です。このニュース記事の見本は、各文化や、貴地区で提供する奨学金の内容などに合わせて、修正を加えて下さい。

記事の見本：申請書式の入手方法

提出者： (氏名)
(電話番号/ファックス)
(Eメール)

即時発表用

2003-04年度ロータリー財団奨学金申請書式の入手方法

(都市名) (日付) — 海外留学の夢を実現させてくれる2003-04年度ロータリー財団奨学金の申請書式が**(クラブ名)**ロータリー・クラブより入手できます。

国際理解と親善の増進を目的とするロータリー財団奨学金は、ロータリー・クラブが所在する160カ国や、中国とベトナムのようなロータリー以外の国へ留学する機会を提供します。世界中のクラブから、約1,200口の各種奨学金が授与されます。

海外留学中、ロータリー財団の国際親善奨学生は、「国際親善使節」のつとめを果たします。奨学生は、ロータリー・クラブや地区の行事に参加し、学校や市民団体その他のフォーラムなどに参加し、自国を代表して国際理解と親善の増進につとめます。

1学年度の国際親善奨学金は、1年間の海外留学を可能にし、旅費、授業料、食費、教材費の一部、そして、ロータリー財団が必要と認めた場合には1カ月間の語学研修費も全部含めて、米貨25,000ドル、または他の通貨で同等額を上限として支給されます。

マルチ・イヤー国際親善奨学金は、他国の大学で学位取得を目指して留学を希望される方に、2年間、1年につき、一律、米貨12,000ドルの補助金が支給されるものです。また、このほか、海外で、3カ月ないし6カ月の語学力の強化研修および文化実習のために資金を提供する文化研修のための国際親善奨学金もあります。これは、旅費、授業料、ホームステイ諸経費を含み、それぞれの期間に最高米貨12,000ドルと米貨19,000ドルの奨学金が与えられます。

情報の詳細と申請書式は、**(ここに、地元の連絡担当者の氏名、住所と電話/ファックス番号、およびEメール住所、ならびに奨学金の種類と締切日に関する情報を挿入します)**にご連絡下さい。奨学金に関心のある学生は、英語の申請書式をダウンロードできるロータリーのウェブ・サイトwww.rotary.org/newsandinfo/downloadcenter/pdfs/139en.pdf をご覧下さい。

ロータリー財団国際親善奨学金プログラムは、民間法人による世界で最大規模の国際奨学金プログラムです。人道的奉仕、個人的親善使節の役割、学業における卓越に焦点を当てる同プログラムが1947年に創始されてから、30,000人以上のロータリー奨学生に奨学金を提供した。

###

記事の見本：奨学生の選定

提出者： (氏名)
(電話番号/ファックス)
(Eメール)

即時発表用

当市の大学生が「ロータリー奨学生」に選ばれる

(都市名) (日付) — (都市名)のロータリー・クラブのスポンサーによる(奨学生氏名)は、2003-04年度ロータリー財団国際親善奨学金を授与されました。(奨学生の苗字)さんは、(国名および都市名)の(大学名)大学で勉強します。

(奨学生に関する情報：奨学生の氏名、出身地、学歴、財団奨学生としての研究分野、業績などを記入すること)

[注意：当該奨学生が1学年度国際親善奨学金以外の奨学金を受領した場合、次の文章は、マルチ・イヤー国際親善奨学金*、または文化研修国際親善奨学金**のどちらか、下記のうち、該当する文章に書き換えること。]

(奨学生の苗字)さんには、往復旅費ならびに1学年度中の授業料、下宿代と食費、教材費、臨時費などを合わせて米貨25,000ドルまでの奨学金が授与される。

(奨学生の苗字)さんは、今年度のロータリー財団国際親善奨学金が授与された、世界中で1,200名の奨学生の一人である。国際理解および親善の増進を目的として授与される奨学金により、選ばれた学生は、ロータリー・クラブが所在する160カ国以上の国の一つや、中国やベトナムのようなロータリー以外の国へ留学する機会が得られる。海外留学中、ロータリー財団国際親善奨学生は、ロータリー・クラブや地区、学校、市民団体、その他のフォーラムで講演し、ロータリーの「親善使節」として活躍することになっている。

ロータリー財団国際親善奨学金プログラムは、民間法人による世界で最大規模の国際奨学金プログラムです。人道的奉仕、個人的親善使節の役割、優秀な学業に焦点を当てる同プログラムが1947年に創始されてから、30,000人以上のロータリー奨学生に奨学金を提供した。

###

* (奨学生の氏名)さんは、海外留学中に学位取得を目指すマルチ・イヤー国際親善奨学金を受領し、海外留学中、ロータリー財団より、毎年12,000ドルの奨学金を2年間受領することになる。

** (奨学生の氏名)さんは、(外国語)の能力を身につけるための語学力強化訓練と文化研修を目的とした国際親善奨学金を受領し、ロータリー財団より、往復旅費、学費、ならびに(3カ月または6カ月)の、最高(米貨12,000ドルまたは米貨19,000ドル)までのホームステイ諸経費の支給を受けることになった。

記事の見本：海外からの奨学生の到着を発表する

提出者： (氏名)
(電話番号／ファックス)
(Eメール)

即時発表用

当地のロータリアン、2002-03年度のロータリー財団奨学生(人数)を迎える

(都市名) (日付) — 当地の(クラブ名、あるいは、地区番号、都道府県名)のロータリアンは、2002-03年度中、(人数)名のロータリー財団奨学生をホストすることになった。これらの奨学生は、今年、70カ国からロータリー財団国際親善奨学生として選ばれた1,200名の奨学生のうちの(人数)名である。(出身国名)からの(奨学生#1の氏名)さんは、(教育機関名)で、(専攻科目)を専攻し、(出身国名)からの(奨学生#2の氏名)さんは、(教育機関名)で、(専攻科目)を専攻することになっている。

国際理解と親善の増進を目的とするロータリー財団奨学金は、ロータリー・クラブが所在する160カ国や、中国とベトナムのようなロータリー以外の国へ留学する機会を提供します。今年、当地へ留学することになった(奨学生1)と(奨学生2)は、当地のロータリー・クラブ例会や学校、市民団体、その他のフォーラムなどで、各自の国の文化や生活様式などについて講演することになっている。(ここに、各奨学生の趣味や特徴などを紹介する文章を含めることができる。)

これらの奨学生は、(月名)月に当地に到着して、勉学を始めることになっている。これらのロータリー奨学生をグループや会合に招待して話を聞くことをご希望の方は、(ここに、連絡担当者の氏名、住所、電話/ファックス番号とEメール住所を記入)に、ご連絡下さい。

ロータリー財団国際親善奨学金プログラムは、民間法人による世界で最大規模の国際奨学金プログラムです。人道的奉仕、個人的親善使節の役割、優秀な学業に焦点を当てる同プログラムが1947年に創始されてから、30,000人以上のロータリー奨学生に奨学金を提供した。

###



Rotary International
One Rotary Center
1560 Sherman Avenue
Evanston, IL 60201-3698 USA
www.rotary.org